

社会変化にも長期休校にも対応！ICTで持続可能なPTAを

集まらなくても気軽に活動できるPTA

西宮市立上ヶ原小学校 PTA 会長 阪本 敬幸, 副会長 山崎 亜希, 副会長 松尾 蘭, 書記 梶 麻里

キーワード：PTA, ホームページ, コロナ, オンラインイベント

実践の概要

- ・社会変化の中でも持続可能なPTAとすることを目的として、ワンストップサービスを実現するPTAホームページを作成。LINEオープンチャットも利用し、オンライン連絡・活動参加手続を可能とした。
- ・コロナ休校期間中、Zoomを利用したイベント実施。

1. 目的・目標

1.1 時間的・経済的負担減少を目的としたICT活用

PTAは、アナログで非効率な事が多く、「役割ノルマ」や、「何をしているかよくわからない」という事も多く、「役員・委員は大変」と保護者に敬遠されがちである。

共働き世帯の増加、社会意識の変化、家庭数減少等により、近時、PTAの負担を軽くすることは必須である。このため、役員・委員の負担軽減、PTAへのアクセスの容易化、経費削減を図り、PTA活動を活発化・持続可能なものとする目的で、ICTの積極的な活用を進めた。

1.2 コロナ休校期間に交流目的でZoomイベント実施

令和二年3～5月のコロナ休校期間中、長引くステイホームの中で、子供達もやる事が無い・コロナ疲れという状況にあった。このため、子供同士及び子供と地域ボランティアとの交流を図る目的で、6回に渡ってオンライン会議システム・Zoomを利用したイベントを行った。

2. 実践内容

2.1 PTAの連絡・各種手続におけるICT活用について

ICT活用にあたり、①完全無料、②利用者の操作容易性、③管理の容易性、という点に留意し、上ヶ原小学校PTAでは表1のサービスを利用している。

○HPは、概ね以下のように運用されており、PTAにおける連絡・手続面をおよそ網羅して掲載している。

- ・最新の告知事項をトップページに掲載。PTA活動の説明（見守り活動のやり方等）も多々掲載。

- ・紙で配布したおたよりをPDFで掲載。本年度から特に重要なものを除き、原則、紙の配布中止。
 - ・HPに埋め込んだ、施設予約やイベント申込・活動報告のフォームから各種申込・報告が可能。
 - ・PTAの各種規則や、委員からPTAに提出する申請書書式のダウンロードが可能。
 - ・PTAに対する意見提出フォーム（匿名提出可）およびPTAのメールアドレスを掲載。
 - ・PTAのGoogleドライブ内の動画やPDF等の資料のリンクを貼って、閲覧に供することもある。
- 「LINEオープンチャット」は、殆どの保護者がLINEを利用しており取っつきやすい。アドレスを知っていれば参加可能、誰かとLINEの「友達」となる事は不要で、手軽に登録できる。以下のように運用中。
- ・「お知らせオープンチャット」「見守りオープンチャット」があり、いずれも参加は任意。
 - ・「お知らせオープンチャット」ではイベント参加募集・HP更新情報等を通知。
 - ・「見守りオープンチャット」では「投票」機能を利用し、見守り活動（旗振り等）の参加登録を実施。「投票」機能はリアルタイムで登録日時の参加者数を確認できるため、参加者が少ない日を確認して登録する事が可能。

2.2 Zoomイベント

休校期間中、クイズ大会（4/29、約100名参加）、法律教室（5/11、約50名参加）、子供同士がフリートークできる場（5/13・16、延べ約40名参加）を開催した。

各イベント準備は全てオンラインで行い、PTA役員が現実に集まることは一度もなかった。告知はLINEオープンチャット、申込はHPのフォームを利用した。

クイズ大会自体は低学年・中学年・高学年の部に分けて開催し、演出（効果音・アバター利用等）も趣向を凝

表1 利用サービス一覧

内容	利用サービス	特徴	解決したい問題等
HP作成	JIMDO	最低限の編集はスマホアプリで容易。 HP内に外部ページの埋込可能。	PTAは面倒・何するか不明という保護者意識
施設予約フォーム (HPに埋込)	Air RESERVE	予約可能かどうか分かりやすい画面。 申込に対する自動返信有。	アナログな施設予約 (学校の黒板記入)
各種申込・報告書提出 フォーム (HPに埋込)	formzu	申込状況をcsv形式でダウンロード可能。 申込に対する自動返信有。	申込用紙等を印刷・配布・ 集計する負担
一斉連絡、定期活動(見 守り活動)参加登録	LINEオープン チャット	大多数がLINEを利用。 「投票」機能が使いやすい。	同上。 加えて迅速な情報提供

らした。クイズ大会を行った令和二年4月時点ではZoomを利用したことがない家庭が多く、PTA役員もZoomの操作方法を勉強し、保護者向けの案内も作成した。

法律教室は、コロナ感染者・医療従事者に対する差別問題が発生した時期でもあり、弁護士の保護者を講師として「親がコロナに感染した子供が仲間外れにされた」といった事例を用いて、いじめの違法性等を説明した。

その後、長年見守り（通学時旗振り）活動ボランティアにご協力頂いている近隣大学のゼミ（関西学院大学教育学部・藤木ゼミ）と共同で、ゼミ学生と子供との交流会（5/22、5/29、6/20、延べ約70名参加）を開催し、学生が折り紙教室、スポーツ教室、トーク会等を行った。

3. 成果

3.1 PTAの連絡・各種手続におけるICT活用について

○HPは概ねワンストップサービスを提供し、LINEオープンチャット利用も開始したことにより、紙による告知に伴う作業（編集・校正・印刷・配布）はほぼ無くなり、告知の所要時間は大幅に短縮（1週間⇒15分～1時間）（図1）。集計も自動で行われ、従来の役員の負担は激減した。自宅のみでの作業も可能になった。

○印刷関係費（紙・インク・トナー代）を大幅に節約（年額約20万円⇒約6万の見込み）。

○保護者にも「過去のおたよりを探さなくても、HPですぐ見られる」「活動がよく分かる」と好評。

○見守り活動に上記「投票」機能を利用することで、保護者が自主的に「人手不足の日に参加」する事を可能とした。PTAが行っていた参加者募集・割当（当番表作成）・連絡を、個々の保護者に分散した事になる。保護者側としては、都合の良い日を見つけて参加決定する事が可能になったという事になる。

3.2 Zoom イベント

休校中、殆どのPTAは活動休止し、学校も課題を出す程度の活動であったが、当PTAはICTを活用するシステムを構築していたためイベント告知・申込が可能で、Zoomを利用して有意義な活動ができたと考えている。

子供達はZoomで久々に会う友達に嬉しそうに手を振り、イベント終了後も長時間話し込むなどし、保護者からも感謝の声を多数頂いた（写真1）。

イベントに参加した子供とゼミ学生も、通学路で挨拶する程度の関係から、気安く話ができる関係へと発展した。コロナの影響により従来の見守り活動も休止している中、オンライン交流で、以前より密接な関係が築けたというのは興味深いものがある。子供と学生の交流のみならず、ゼミ教授とPTAとの交流の機会にもなった。学生にとっても、貴重な経験となったのではなかろうか。

交流による情操教育・地域連携の効果に加え、ICT教育・法的教育効果もあったはずである。Zoomイベントを続けるうちに、子供達が、自分が話さない時はミュートにしたり、画面共有機能を使い出した時は驚かされた。



写真1 Zoom クイズイベント

4. 今後に向けて

ここで紹介したシステムは、PTA外の社会では当たり前前に利用されているレベルで、少し使ってみれば簡単に操作できると分かるものであり、今後のシステム継続については心配していない。

現在、当PTAは役割ノルマを廃止し、完全任意活動で動くPTAに向け改革中であり、これを実現するためにはPTAの基本システムも改革することが必要である。少子化、負担の大きなPTAへの拒否感、コロナによる制限といった問題を打破し、持続可能なPTAを目指すため、さらなるICT活用の可能性を模索したい。



図1 上ヶ原小PTA ホームページ

HP トップ画面

お知らせオープンチャット

見守りオープンチャットの「投票」